

巨大地震に備える

★揺れに備える

東日本大震災では津波に注目が集まりましたが、阪神・淡路大震災で亡くなった方の原因の大部分は、「圧死」です。

耐震性のない住宅は倒壊の危険があります。また、家具が倒れ、下敷きになるとけがをして、避難ができないかもしれません。今一度、家の中を点検して、自分や家族の命を守りましょう。

★津波に備える

津波に対しては海や川から離れ、高台に避難することが重要となってきます。危険を感じたら率先して、高い場所に避難しましょう。

★想定外に備える

ハザードマップなどで示されている浸水予想地域はあくまでも予想です。また、「これまでは大丈夫だった」と知識や経験に頼り切ることも危険です。

★自分自身が備える

過去の災害は決して他人事ではありません。東日本大震災から私たちは多くを学びました。私たち自身に迫りくる災害から身を守るために考え、行動しましょう。

と南三陸町の今

ます。蒲郡市も南海トラフ巨大地震の発生が心配通して、自分の周りを今一度点検してみましょう。

安全安心課 ☎66♦1156



←↑同じ場所から写した震災直後(左)と25年秋(右)の様子。中心市街地跡のかさ上げ工事が始まりしました。

蒲郡市は被災地支援として、震災後約20人の職員を宮城県南三陸町に派遣し、昨年は4人の職員が赴きました。派遣職員が南三陸町で学んだ防災の心構えをお伝えします。今後も被災地支援を続けていきます。

南三陸町から学ぶこと

大規模災害に備える

○建築住宅課 倉橋正博(平成25年1~3月)
南三陸町派遣中に印象に残った町長の言葉があります。「災害は起こってから想定外であってはならない。」この言葉は被災地を目前にして聞くとき非常に重みのある言葉に聞こえました。南三陸町においても津波被害は当然想定されており、対策も地域防災計画にまとめられていましたが、現実には、想定以上の災害に対して全く使えないものだったのです。その結果はご存知のとおり復興というより新たに町を築造するに等しいほどの状況になってしまいました。私たちは常に想定以上の災害が起こり得ることを考えて防災対策をとることが大切です。

復興に必要なまちの力

○行政課 井坂和美(平成25年4~6月)
水産業と観光業が盛んで、まちの一部は国定公園に指定されており、海に浮かぶ島々の中には竹島がある。これは南三陸町の紹介です。私たちの住む蒲郡市に似ていると思いませんか？

復興が遅いと言われる被災地ですが、それは住宅地などを高台に移転しているからです。蒲郡市に例えるならば、「市役所周辺が津波の被害にあったため、五井山を削って新しく住宅地をつくることにした。」といったところでは

震災から1年以内にも仮設商店街ができ、海の幸いっぱい「キラキラ井」は観光客にも人気です。これらはすべて町民の皆さんの力です。まちをつくるのはそこに住む人なのだ実感する3ヶ月でした。